



遺跡の全景 ※写真は(財)県文化振興事業団埋蔵文化財センター提供



衣川区六日市場地内の「接待館遺跡」は11月20日、文化審議会の答申を受け、国指定史跡柳之御所・平泉遺跡群への追加指定が確定となりました。平泉館と推定される柳之御所遺跡に匹敵する堀や土塁、儀式で使うかわらけの大量出土が評価されたものです。同遺跡の追加指定は、市内関連史跡の世界遺産登録への大きな励みになるでしょう。

接待館遺跡が国指定史跡に

平泉の藤原文化との関連が証明され、市内で7番目の国指定史跡へ

接待館遺跡の名は、1777年「膽澤郡下膽澤下衣川村風土記御用書出写」に古館として記載された、「セツタヤ(接待館)」に由来しています。これは、藤原氏三代・秀衡の母の居館と伝わるものです。この遺跡のある衣川北岸流域には、東西約1・5キロ、南北0・2キロの範囲に、安倍氏や平泉の藤原氏に関する伝承のある遺跡が10数個存在しています。

衣川左岸堤防工事のため、平成16年から17年まで県文化振興事業団埋蔵文化財センターが調査した結果、弧を描く2つの堀跡と掘立柱建物跡53棟、21基以上の土坑跡、竪穴住居跡3棟、多数の柱穴が見つかりました。さらに、内側の堀跡から12世紀後半のかわらけが大量に出土。儀式などで使うかわらけが大量に見つかったことで、遺跡が儀式・儀礼の場であることが示されました。また、同18年から市教育委員会が遺跡内容の調査を行ったところ、外側の堀跡の内側と外側に土塁(※)があった

ことが確認され、遺跡が柳之御所遺跡に匹敵する大規模な施設と判明。衣川北岸の一帯が、平泉の都市であったことが初めて証明されました。また、同遺跡の東側にある細田遺跡の12世紀後半の建物跡や、東端の六日市場遺跡にある12世紀の大きな2条の溝跡も、ここに道路や施設があった可能性を示しています。

以上の調査結果から、市は接待館遺跡を史跡柳之御所・平泉遺跡群へ追加指定するよう21年7月23日に文化庁へ申請。11月20日に、文部科学大臣の諮問機関である文化審議会から追加登録するという答申を受けました。年明けには、同大臣により正式決定される予定です。

この追加指定は、白鳥館遺跡や長者ヶ原遺跡跡が平成26年以降に目指す、世界文化遺産への追加登録の大きな励みになると考えられます。

(※)土を盛って造ったどて

■問い合わせ 市教育委員会事務局歴史遺産課(江刺総合支所内線440)